

## 催告時の色付封筒の検証結果及び取扱いについて

### 1 概要

令和元年（2019年）9月の総務常任委員会の附帯決議で色付封筒の使用について、『催告書の送付に使用してきた「赤色の封筒」の再度の使用は止められたい。』及び『収納事業について、催告書に使用する場合、同一色の封筒で行っていると回収状況が悪くなる。よって色を変えて催告されたい。』とのご意見をいただきました。

このご意見を受けて、今後の使用の方法や可否について検討するため、色付封筒の効果を以下のとおり検証いたしました。

### 2 検証方法

- （１）検証内容 滞納者に対して赤色と黄色の封筒を半数ずつ使用し、１か月後の納付状況・納付件数を集計し効果を検証
- （２）検証期間 2019年12月2日（月）～2020年1月31日（金）
- （３）対象者 平成31年度分に未納がある者  
（督促状及び催告書を送付しても納付がない者）
- （４）送付件数 9,418件
- （５）送付書類 『最終催告書』

### 3 検証結果

	未納額	納付額	納付率	未納件数	納付件数	納付件数率
黄色	501,440,898 円	150,261,178 円	30.0%	4,667 件	3,128 件	67.0%
赤色	521,308,830 円	182,616,000 円	35.0%	4,751 件	3,455 件	72.7%

今回の検証の結果、黄色の封筒よりも赤色の封筒の効果が高いことがわかりました。  
この検証結果を踏まえ、赤色の封筒は、財産の処分を行う前に送付する「差押予告」や「公売予告」などの重要な通知で使用してまいります。

今後、新しい封筒を作成する際には、委員会のご意見を考慮し、柄を付けるなど様々な工夫をして、より良い封筒を作成してまいります。